

地方ローカル線

赤字路線は廃止するべき？

近年、集中豪雨や、台風、地震など毎年のように自然災害が発生しています。それに伴いJR九州でも不通区間が生まれており、日田彦山線の復旧について、会社は沿線自治体に1億6千万円の収支改善を求めています。この件について、ある職場では赤字路線だから仕方ない「もっと要求するべき」廃線にすればいい」といった声が上がっていたそうです。

自分に置き換えて考えてみましょう。現在、鉄道を利用して通勤している方の中には、鉄道だからこそ、長距離の通勤が可能という方も多いのではないのでしょうか？自分の利用区間が不通となった場合、不便を感じませんか？毎日、長い距離を車で通勤できますか？通勤用の車を新たに購入しなければならない必要性に駆られる方も出てくると思います。それが可能ですか？こういった不便を不通区間の沿線自治体の方々に強いている現状があります。そのことを理解していれば、安易に赤字だから仕方ない」という発言はできないはずです。

そもそも黒字路線は篠栗線のみです。

地方での「まちづくり」

仮に沿線自治体が費用を負担する場合、税収が一定と考えれば新たに費用負担のみが増えます。そのため自治体が提供する教育、福祉をはじめとする様々な部門の財源が圧迫され、サービスレベルの低下につながる可能性があります。JR九州は「まちづくり」を標榜している会社ですが、地方に関しては逆行しているといえませんか？都市部に新しい施設を建造することだけが「まちづくり」ではありません。

また、JR九州は税金の減免措置も受けています。これは実質税金を受け取っているのと同じ形です。また株式上場時には経営安定基金387億7千万円を返還しないことが認められました。そのうち872億円については鉄道設備の維持更新に充てることになっています。自治体の方は様々な利用促進策を提示するなど、復旧に向けて努力をしています。不便を強いている側が安易な発言をするのは控えましょう。

不通が続くことで、子供たちの進学にも影響がでています。老人や子供、身障者など交通弱者にも大きな影響が...



お客さまの身になって、お客さま満足を追求するんだよね？



若い力

第111号

2019年 2月15日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515